





# ChatGPT Images 2.0 : 知財実務のパラダイムシフトと次世代ガバナンス

## ChatGPT Images 2.0 の技術的ブレイクスルー

旧モデル (1.5) を圧倒するコア・ケイバビリティ

GPT-Image-1.5	GPT-Image-2.0
 1536x1024  8-18秒	 4096x4096  約3秒
テキスト描画精度 1~5星向け <b>X</b>	テキスト描画精度 ✓ 約88%の文字レベルの正確性 (非ラテン言語含む)
多言語対応 狭未言語中心 <b>X</b>	✓ 多言語対応 日本語・韓国語・中国語等に基盤
単発生成のみ	✓ Thinkingモード / 最大6枚の連続生成 (推論機能)

### 最大4Kの超高解像度と「一貫性」の担保


 一プロンプト
   

  
 視覚的DNAを維持

非ラテン言語を含む  
テキスト描画の正確性が  
99%に到達

日本語
 
 한국어
   
 中文
 
 हिन्दी


## 知財実務における劇的なワークフロー変革

**Tier 1: AI**  
 (瞬時のノックアウト審査)
   
 AIによる瞬時の  
ノックアウト審査

**Tier 2: ハイブリッド**  
 (AI支援型の包括的調査)
   
 AI支援型の  
包括的調査

**Tier 3: 人間の専門家**  
 (最終的な法的評価)
   
 人間による  
最終的な  
法的評価

### 特許・意匠図面およびプロトタイプングの高度化


 →
   
 promptで  
詳細な図面を生成
   
 →
   

  
 ラフスケッチから満練された図面を生成

### グローバルな模倣品監視 (アンチカウンタフェイト)


 →
 
 →
 
  
 APIを介したECサイト等の自動スクレイピング

## 2026年最新の法的枠組みと世界動向

日・米・欧における著作権性と優劣リスクの判断

日本	米国	欧州
 依拠性がある場合、 二次的著作権侵害と して刑事罰リスク	 人間による「創造的奉 与」がないAI支慮勃の 著作権を安定	 学習データに使用した 著作物の詳細リスト公開 が義務化 (透明性要件)

### ホワイトハウスの AI政策枠組み (2026年3月)


  
 学習フェーズ「原則フェアユース」、  
最終判断は判法に変わる、自主的な  
ライセンス構築を醸成

### 欧州AI法 (EU AI Act) による透明性要件


  
 権利者が会社IPの使用状況を  
遡跡・監視できる仕組み

## 企業が構築すべき次世代ガバナンス

### C2PAメタデータと電子透かしによる来歴証明 (Provenance)


 →
 
 →
 
 →
 
  
 AI生成物
   
 C2PA埋め込み  
(喧さん不可能な署名)
   
 電子透かし
   
 拷跡 (いつ、どのモデル  
で生成されたか証跡)

### エンタープライズ向け ツールの徹底活用


  
 圖察データを学習に利用しないChatGPT  
EnterpriseやAPI連携のみ許用、遺密情  
情報漏洩 (インプットリスク) を遮断

### Human-in-the-loopの 徹底と証拠保持



  
 生活物をそのまま利用せず、必ず人間  
が權説、著作權生活のために「創作  
紛争率」のプロセスログを機管